

## 【きっかけ】

お米を研ぐ際に、手間がかかると感じた。



冬場だと水に触れる手がかじかむ



・ 素手で洗うことが面倒

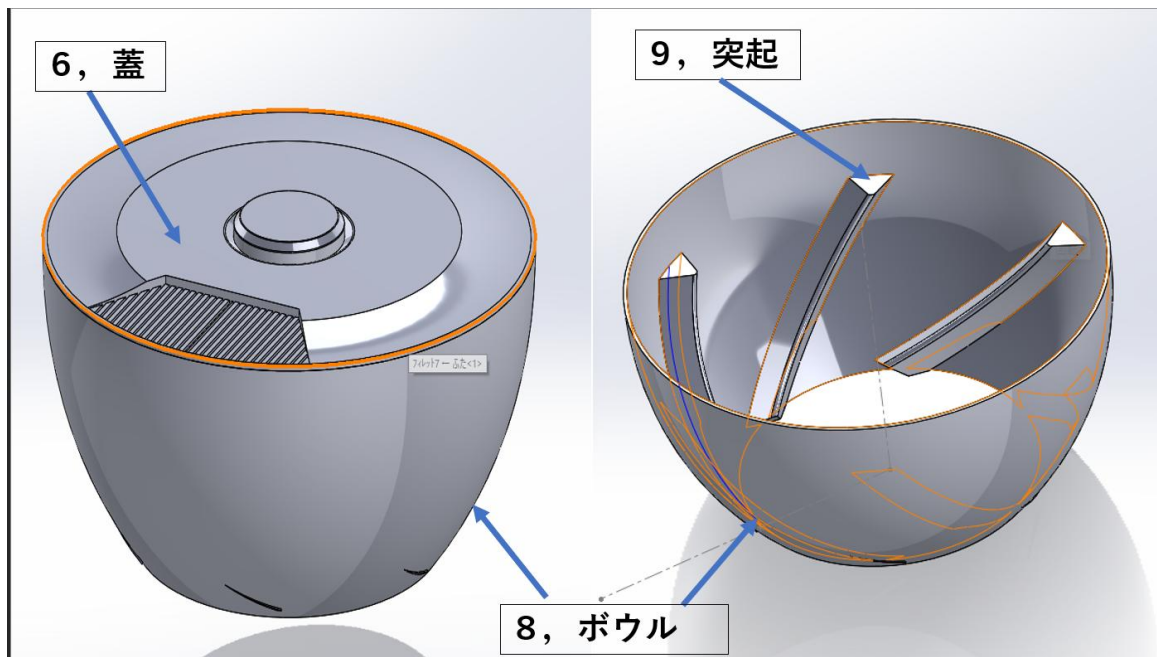
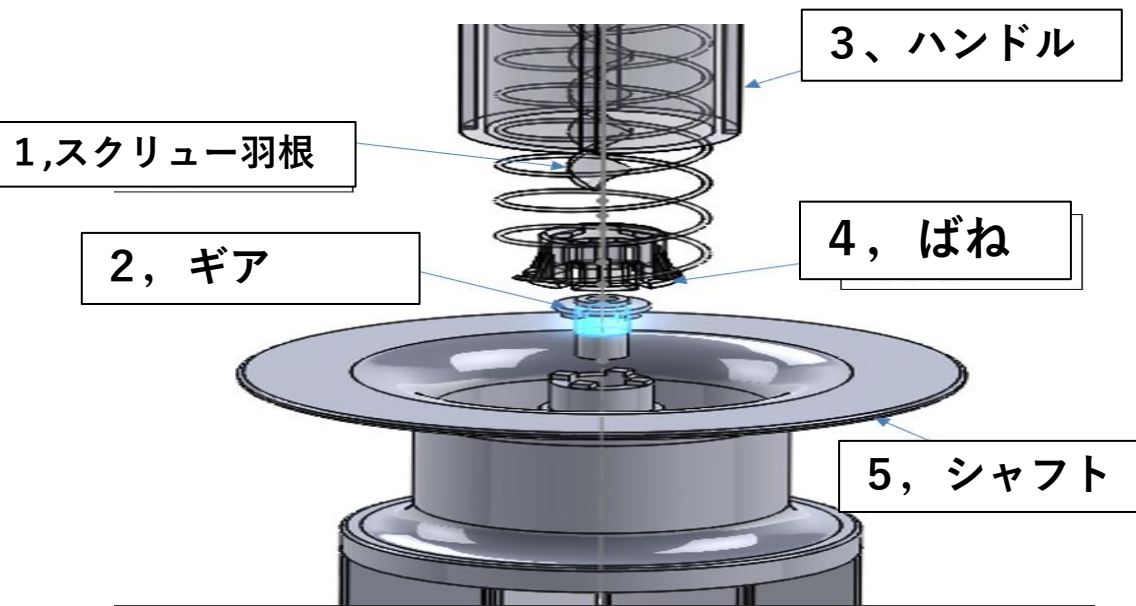
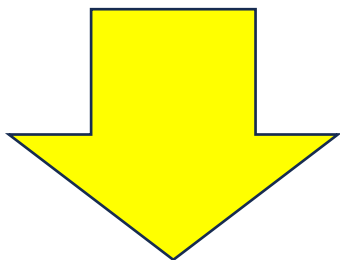


- ・ 研ぎ汁を排出する際にお米をこぼしてしまう
- ・ ザルに米が張り付き釜に移すのに手間がかかる



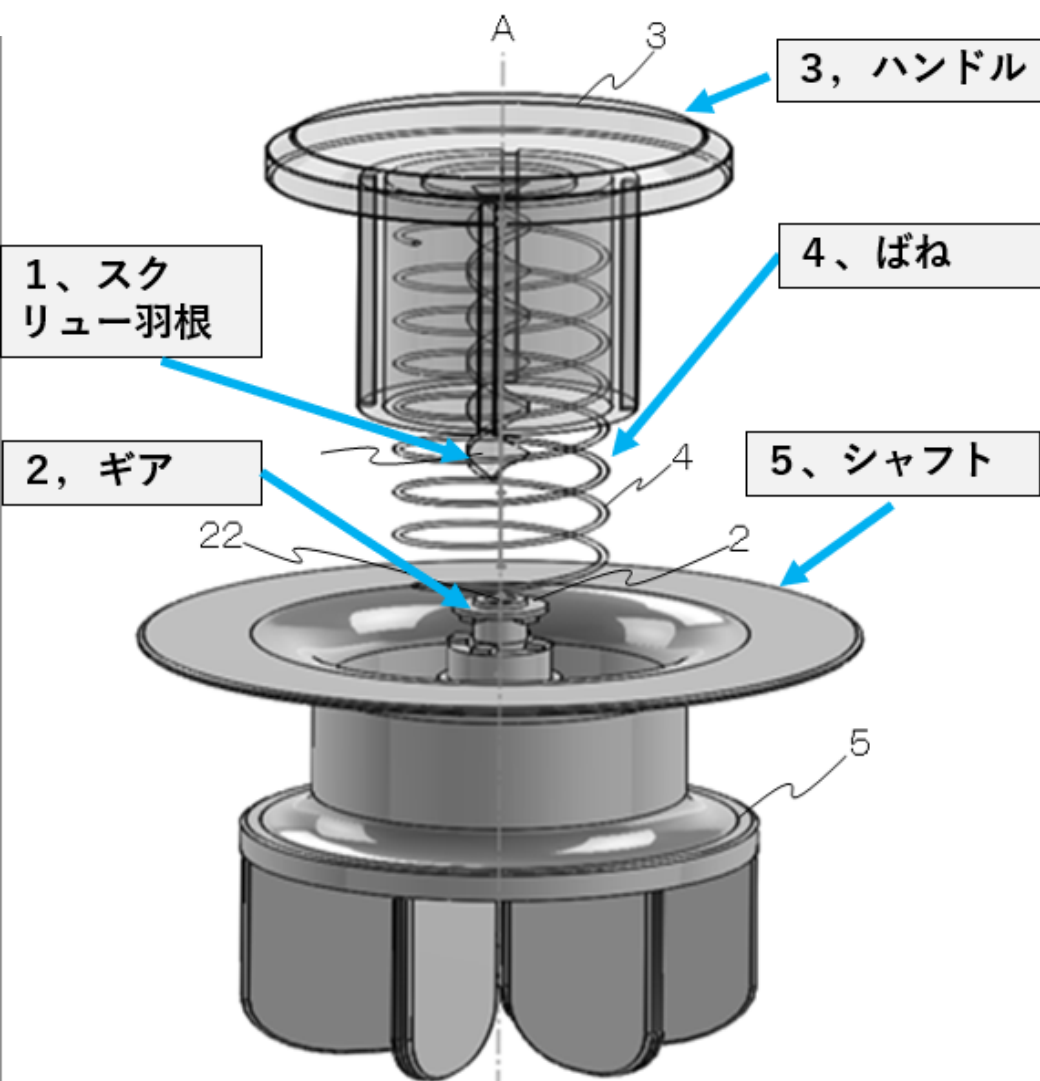
・ お米がもったいない

・下の図は、ハンドルを押すとシャフトが回転し、ハンドルを離すと縮んだバネと押し込まれたハンドルが元に戻ると同時にシャフトが逆回転する。



左上の図は  
・ 蓋に給排水部分がある

右上の図は  
・ 容器に突起をつけた



## 【発明の名称】 米研ぎ器

ハンドル 3

：スクリュー羽根 1 がギア 2 の貫通孔に入りシャフトが回転する

ばね 4

：ハンドル 3 を離すとばね 4 作用しハンドルがもとの位置に戻る

スクリュー羽根 1 とギア 2

：スクリュー羽根 1 の上下運動をギア 2 に伝え回転運動に変換

シャフト 5

：米をかき混ぜる爪

1…スクリュー羽根 2…ギア 3…ハンドル  
4…ばね 5…シャフト